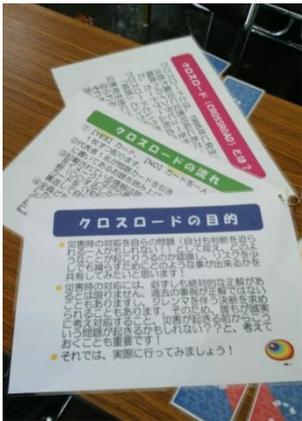


コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【97号】2018年10月

東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL：03-3383-7800

平成30年度 東京都・中央区・港区合同総合防災訓練が開催され、ボランティア訓練にコープ災害ボランティア会員7名が参加しました。➤ 中央区社会福祉協議会が行なう訓練のクロスロードゲームには会員2名が参加し、区民の方々と一緒に避難所運営について意見交換しました。➤ 港区社会福祉協議会が行なう防災まち歩き訓練には会員5名が参加し、要支援者の方と一緒にまち歩きを実体験しました。



➤クロスロードゲームで避難所運営を考える参加者



＜中央区社会福祉協議会＞

浜町公園のブース内でクロスロードゲームを行い、避難所運営について地元の方と学ぶブースを開催。CO 災ボ会員2名が参加しました。

＜参加者の感想＞

- ・熱心な小学生の参加が多かったのですが、ボランティアとしてあなたならどうする？の内容だったので、内容を変えても良かったのではないかと思います。子どもはゲーム感覚が、楽しい様子だった。
- ・地域に住む方が少ないのか、周知できていなかったのか、地元の方の参加が少ないことが残念。

＜港区社会福祉協議会＞

お台場地域の防災まち歩きにCO 災ボ会員5名が参加しました。聴覚障害や車椅子の方と一緒に防災の視点で雨模様の中での訓練実施となりました。

＜参加者感想＞

- ・聴覚障害者の方とのまち歩きで多くの事に気づかされた。発災時の情報伝達の難しさ(障害を持っているか否かの判断の仕方、手話通訳か筆談になるため時間がかかることなど)何か解決方法を考えられたらと思った。
- ・その土地、そのまち、その町会内の特色があることを再確認した。
- ・車いすをサポートする役で実体験できました。新しい人工的な街なので、段差が少ないことに感服しました。



➤要配慮者と歩く防災視点でのまち歩き



➤元災害担当の交番のお巡りさんと話す参加者



➤災害時に情報を映し出す掲示板

■東京都生協連のブースでは、「災害対策本部の立ち上げ訓練」と「防災クイズ」を実施。また、災害物資搬送訓練や救急救命訓練にも参加しました。



災害対策本部訓練



物資輸送訓練



➤「防災クイズ」に親子で挑戦！減災のことを考えていただきました。



開催報告

防災トランプ～楽しく学ぶ防災・減災～



2018年9月22日(土) 10時30分～12時30分 於：東京都生協連会館3階
 講師：福本墨氏
 公立大学法人 長岡造形大学 造形学部 建築・環境デザイン学科 助教
 参加：25名 (CO 災ボ会員 14名)



《福本墨氏の取り組み》

「都市防災」と「コミュニティデザイン」をテーマに長岡造形大学 建築・環境デザイン学科にて教育・研究・地域貢献活動に従事。
 日常の会話になかなか出てこない「身近な危険」や「災害」について、個人の体験談や考えを共有する場がつけれる「防災トランプ」を開発。
 日常を舞台にした具体的な体験談をもとに「防災」について、世代をこえて楽しく話し合う場を形成する活動を行っている。



➤今日のトランプ遊びは・・・

■通常のトランプ遊びのルールを使って、遊びながら防災の話共有します。本日は、「一休さん」と「ババ抜き」で体験。みなさん、防災・減災の話題をたくさん知っているの、お話ししてボーナスポイントをゲット！大いに盛り上がりました。

《講師プロフィール》

公立大学法人長岡造形大学 造形学部 建築・環境デザイン学科 助教
 1982年生まれ。3児の父親。新潟県長岡市在住。長岡市、愛川町、相模原市、横浜市在勤。防災トランプ開発者。防災士。

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程
 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻修士課程

株式会社ウイングベース代表取締役、神奈川わかものシンクタンク代表理事、LCA国際学園 LCA国際小学校 IT・論理教育特別顧問 初等英語教育研究開発顧問



➤「トランプなんて何年振りかしら～」

トランプをツールにして世代を超えて防災について楽しく考える場作り

若者が入るとあきらめが希望に変わる！

高齢者

若者

子ども

担い手の育成

高齢者が増え、活動も十分に行えなくなった。そんなあきらめも、若者や子どもに楽しく伝えることで、明るい方向性が見えてくる♡

■ワンポイントアドバイス

小さなニーズへの支援

ユニフォームが揃っていないと試合にできないという被災者、自ら動きユニフォームを調達、試合に出られた！一つ一つの困難に向き合う。

「怖いこと」と「楽しいこと」は、どちらが伝えやすいか？
 怖いことは、確かに学びになるが、楽しいことは学んで、人に伝えたい。

などたくさんの気づきがありました！！



■グループで盛り上がった話とフィードバック

- ・友人の話：子どもが独立したので家の土台を上げ平屋にしたが、洪水で4時間頭だけ頭が出ている状態で水につかっていた。 →水温と体温の関係…2時間泳ぐと直腸の体温は35度まで下がる。早く知らせる。
- ・大雨で垂直避難 →川沿いの道は、雨の時には避けて通る。短時間で状況が変化するので、通らずに避難する。
- ・帰り道の地震情報を得るにはどうするか？
- ・不審者に遭遇→警察が回った旨の通知を入れてもらう。
- ・大雨、洪水1番ひどい状態で帰る（冠水・マンホールからの噴出）
→自分の車のマフラーの高さを調べて把握しておくが良い。
- ・ハザードマップの整備→地番で検索すると危険度がわかるシステムがある。
- ・大地震が起きた時、自分が子どものそばにいなかったらどうしよう。

時間軸の各々の行動を書き出し、組み合わせで対処をあらかじめ考えておくが良い。

母 職場 — 自宅 — 買い物

子ども 学校 — 自宅 — 公園（友人宅）

自宅から連絡（帰宅している）

子どもの判断する基準づくり（親子で一緒に考えておく）



➤グループで活発な意見交換

防災や減災を広く知ってもらうには、体験を話すだけ、不安や恐怖感を伝えるだけでは失敗してしまいます。

<能動性>

自分に気づき、考え、行動することを前提に様々な人と協力していく姿勢・態度を作っていくことが大切です。そのためには・・・

<地域を知る>

- ・災害時にいた場所でのご近所さんは？
- ・自力で逃げられない人の数は？

積極的に把握するよう動く・・・など
あなたの家族や地域に、今必要なことを考えましょう！

こんな投げかけも、みんなで考え、話し合うヒントに

72時間と聞いて思い浮かぶことは？

- ・生存率が下がる
- ・公的な助けが始まる
- ・備蓄の目安 etc...

自宅で防災訓練をしたことがありますか？

- ・自分と家族のための訓練こそ、実施してみましよう！



<参加者感想>抜粋

- ・トランプというツールをきっかけに、ご近所さんと仲良くなる事が出来そうと感じました。自治会の役員に相談してみようと思います。
- ・みなさんの体験など、いろいろなお話しが聞けて良かった。
- ・防災という固いテーマですが、話が盛り上がりました。団地の人たちとやってみたいです。
- ・面白い取り組みだと思います。すぐに盛り上がる事ができました。
- ・大人、子ども、自分のまわりの人との関わりが大切なことを再度確認しました。

◆♥♠♣ 最終目標・防災トランプを自分たちで作ろう！

自分の地域や、所属団体に合った「防災トランプ」を作成することもできます。
事例や困りごと等・・・より身近な話題を盛り込んで、自ら考える力をゲームで養いましょう。